新連載 #吉岡進の新世代沖釣り紀行

ツリガチ！

TSURI GACHI

新連載1回目で釣りの奥深さと怖さを味わったよ……

Profil◆よしおか すすむ
1982年生まれ。ヨッシーの愛称で親しまれている。一つテンヤマダイ、ライト系オフショアルアーを得意とする。ジャッカルソルトプロスタッフ、シーガーインストラクター。

★当連載も本編（58ページより）は高橋剛が執筆。沖釣りの楽しさをヨッシーとともにお伝えします！

vol.01

茨城県鹿島沖の一つテンヤマダイ

撮影／文◉本誌編集部

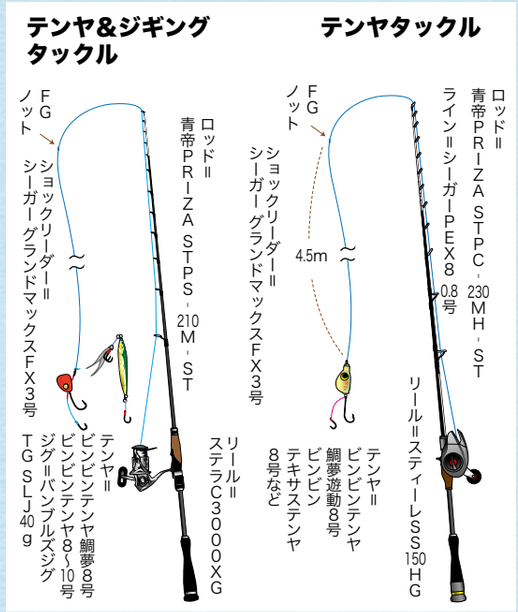
ヨッシーこと吉岡進がエサ、ルアー釣りを問わず、様ざまな釣り物にガチでチャレンジしていく新連載。初回はヨッシーが得意とし、エサとルアーの両方で楽しめる一つテンヤマダイをチョイス。釣行したのは大ダイで盛り上がっている茨城県鹿島エリアだ。

鹿島港出船の主な釣り場は鹿島沖の水深30メートル前後で、海底は根掛かりの少ない砂れき。パラシュートアンカーを入れ、1～2時間の大流しでじっくりマダイを狙っていく。

サイズは600～800グラム前後を主体に1～2キロ級がコンスタントに顔を出し、好日には3～5キロオーバーの大ダイも交じるというから期待度は◎。

★5分のファイトの末、大ダイが海面に姿を現した

テンヤ&ジギングタックル



▲▼テンヤはビンビンテンヤ鯛夢遊動、ビンビンテンヤ鯛夢、ビンビンテキサステンヤ、ビンビンテンヤの8～10号

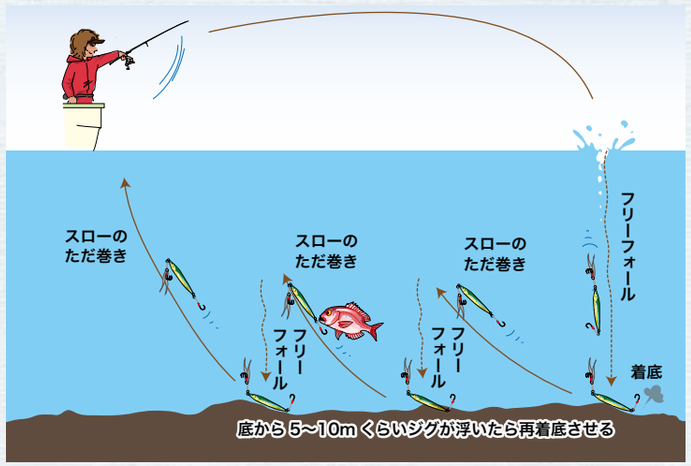
▲ジグはバンブルズジグTG SLJの40グラム

ジギングの釣り方イメージ

◉朝タマヅメはマダイの活性が高く浮いていることが多く、ジギングで手返しよく探るのが有効となる。アンダーハンドでキャストしてフリーフォールで着底させたらスローのただ巻き。ジグを底から5～10メートル巻き上げたらフリーフォールで再着底。これを船下まで繰り返して、宙に浮いたマダイを狙う。

▲フォール時はリールのスプールに軽く指を当てて糸フケを軽減させる

▼アンダーハンドでジグをキャストする



#船宿インフォメーション

茨城県鹿島港 大春丸

☎0299-69-2323
（詳細は巻末の情報欄参照）

◉料金＝詳細は電話にて問い合わせを
◉備考＝4時集合、集まり次第出船。マゴチへも出船

◀小堤 春夫船長とヨッシー

▲全長17メートル、15トンの船で鹿島沖の釣りが快適に楽しめる

★遊動タイプのテンヤで6.5キロのマダイを釣り上げた大徳さん、自己記録更新おめでとうございます！

6.5キロ

軽く投げてカーブフォールそれだけだよ

これが鹿島沖の実力！

▶午前船のラストを飾った橋本さん

3キロ

▶今春から一つテンヤマダイにはまり、大春丸へ毎週のように通っている谷端さん

3キロ級

3キロ級

▲3キロ級を頭に7枚のマダイを釣り上げた青木さん

1.5キロ級

▶本命が釣れてひと安心の松本さん

2.7キロ

▲4号のビンビンテンヤでキャッチした小泉さん

1キロ弱

▲開始から1時間、1キロ弱のマダイをキャッチ

読みどおり魚は浮いてるけど届くとこにいるのはこのサイズか……

★ドラグが滑りラインが引き出される

当地の一つテンヤ船は、この時期に生きエビエサを用意してくれる船宿があり、取材で訪れた大春丸もその一軒。

「生きエビはエサ持ちがいいし、よく釣れるよね」とは小堤春夫船長。

今回は、生きエサを使ったテンヤ釣りを軸に、マダイが底から少し浮いている朝夕マヅメは手返しよく広く探れるジギングで鹿島沖のマダイに挑んだヨッシー。詳しくは58ページから始まる本編にて！

◀ジグのカラーはグリーンゴールドや赤金の実績が高い

▶生きエビは船宿で準備しているが、ときに入荷できないことも